

平成30年度第2回平塚市博物館協議会会議録

■開催日時 平成30年10月25日（木）10時～11時50分

■開催場所 平塚市美術館 研修室

■会議出席者（敬称略）

会 長 椿田有希子

副会長 平井 晃

委 員 植田育男、堀之内 一天、横関秀美

事務局 高橋社会教育部長、澤村館長、杉山館長代理（管理担当長）、栗山館長代理（学芸担当長）

■傍聴者 1名

■会議の概要

1 開 会

館長挨拶

2 議 事

（1） 報告事項等について

- ・ 臨時休館について
- ・ 平成30年度夏期特別展について
- ・ 夏期行事の開催状況について

（2） 今後の事業計画等について

（3） その他

- ・ 事務連絡等

■議事および質疑

議題（1）報告事項等について

◆臨時休館について事務局澤村館長が説明資料により説明。

委 員 今回は怪我が無くてよかったが、こうした事故の再発防止は考える必要がある。今回の原因究明と再発防止策はできているのか。

事務局 再発の防止について、階段天井のモルタル仕上げ部分は剥落防止の措置を施す。階段の壁についても対策する。館内で他にモルタル仕上げになっている部分は無いので、今後同様の事故はないと考えている。

委員 この協議会で議論するのが適切かどうか分からないが、原因を良く突き詰めて予防措置をとることで、休館という事態にならないようにしなければいけない。博物館という施設の機能というか、市民の税金を使う施設として万全な形で提供できるように、原因は何かということまでさかのぼってやっけていかないと、予防措置は難しいと思う。

事務局 多変申し訳ないと思う。場合によっては大事に至るところであったものであり、我々の予知の不十分さについて反省しています。建築物に関する法定点検等も実施しており、この部分については外見では判断できない状態でしたので、想定を超えてしまった状況です。今後どのような危険があるかということについては、気づいた点を課題として挙げ、予算化等を含めて取り上げていきたい。

委員 一つ提案だが、安全ということを皆で喚起していかなければならないと思うので、安全委員会のようなもので定期的に巡視するなどのアクションに結び付けていく必要があるのではないか。委員の皆さんの意見も聞かなければならないが、協議会でも巡視して良いと思う。

事務局 博物館が単独で実施するのが良いかどうか、他のセクションとも協議が必要です。今回の事故は法定点検の中では見つからないものであった。市では今回の事例を受けて他の公共施設ではどうかという点検を呼びかけ、必要な措置をとるという機会になった。市の公共施設全体の動きに発展しており、博物館も関係各課と連絡をとりながら進めている。その中で委員の意見も伝えていきたい。

委員 公共施設の点検の頻度や内容をよく知らないが、民間のマンションでは10年に1回の大規模改修が義務化されていて、かなり細かく劣化状況を調べている。博物館は竣工後40年を経過しているので何回かそういう修繕をしてきたと思うが、こうしたモルタルの剥離は想定されないものなのか。

事務局 外壁については細かくチェックするが、内壁については目で見てひび割れ等をチェックするというものです。

委員 これを教訓にして、その点をもう少し厳しくチェックするようにした方がいいように思う。

委員 市の公共施設も建った年から考えると経年劣化しているものもあると思う。その取扱いについて修繕で行くのか大規模な改修が必要なのか、市の施策にもよると思うが美術館と博物館とを比べて差異を感じることもある。ご苦勞もあると思うが大切な社会教育施設であることを考えると、手当て的に改修するということにも限界があるのかなと思う。市の施策として長期的な計画の協議になるのか、それともまだその段階には至っていないのか。

事務局 仰るとおり、市の施設は建った時期がそろって一斉に老朽化している。こうした施設に

については市の資産経営課という部署が全体をマネジメントしながら計画的に大改修や複合化建て替えなどを検討している。博物館については40年経った今、耐震化によって長寿命化を図るつもりで順番を待っていた状況。ただ、今回のことをふまえて、長寿命化するにも手を入れる部分について視点を増やす必要があると認識したので、市の全体計画の中で発言していきたい。

事務局 社会教育部では隣の図書館が昭和45年の竣工です。公民館も含めて公共機関がかなり老朽化して色々な弊害が出ているということは承知している。平塚市の施策の一つとしては公共施設の長寿命化ということがある。新たな施設は作らないというのが原則の一つでもあるので、如何に長く持たせるか。また、再編計画というものもある。日頃の点検については点検マニュアルというものが来ており、公民館では週に一度周りを確認することになっている。今回のことを踏まえて、今後どういうことができるかじっくりと検討していかなければいけないと考えている。

委員 公民館でも雨漏りやひび割れがひどい。博物館の件をきっかけにして市全体の公共施設を見直すことをやっていただけたら良いと思う。建て替えというと大変なことで、改修・修理というところが精いっぱいだと思うが、博物館が良い教訓になってほしい。

委員 館内行事が中止ということだが、完全に中止なのか延期ということなのか。とくに影響を受けるのは秋期特別展だと思うがその辺はどう考えているのか。市民の反応はどうか。

事務局 10月30日から補修工事に着工する。その中で開催できるかどうか検討中のものがいくつかあるが、今の段階で館内でできるかどうかは判断できない。階段部分が対象になるので上下の移動ができないので、館内では難しい。

事務局 現在、館内での行事は中止しているが、館外での行事は予定どおり実施している。館内の行事でも近隣の施設を使用できる場合はそちらで開催しているが、資料を使用する行事は開催できていない。工事が始まると収蔵室の出入りが一部不可能になることも想定されている。ただ、何か月も中止が続くと参加者の皆さんのモチベーションにも影響するので、こうした機会に外で研修するなどの工夫を考えている。ほかに秋のプラネタリウム団体投影や中学生の職場体験などをお断りしている状況。

やむを得ない状況でもあり、参加者や窓口での苦情というのは今のところ寄せられていない。

委員 他の場所で実施できている行事はどういうものか。常設の展示は初等教育にとって貴重な学習の資料になっている。こうした資料を目にする機会を失うということを考えると、一部他の場所を借りて展示するなどの検討はされる余地があるのか。

事務局 工事の期間について、当初これほどの規模になるとは考えていなかったもので、他の場所で展示するということを検討するいとまはなく、申し訳なく思っている。プラネタリウムについては大きなご迷惑をかけてしまった。小学校で古民家や資料の見学に来られる時期が主に1月から2月に多いというデータがあり、何とか2月には再開したいと考えている。常設で他の場所にとというのは、場所の確保自体がかなり難しいと思う。

委員 美術館のスペースなどはどうか。市役所の1階での写真展などで多くの市民が入っていたと記憶している。物は出せないと思うが写真などで博物館が忘れられないようにすることができるとも考えた。ただ、1月中の再開ということを考えると、その準備中に再開ということもあるし、微妙なところでもある。

事務局 美術館では何年も前から企画展示の計画を組んで進めている。また、ギャラリーの方も年間予定が決まっているので、そこに入るのは難しい。長期となると例えばケースをひとつ一般空間に持ち込んで、というくらいが限界と考えられる。

委員 市の収蔵施設が大神にあるが、そういうところを開いてもらうということをやってもらえたらと思うが。移動博物館のようなものがないだろうか。公民館では展示ケースの中を時々入れ替えてもらって、子どもも興味を持っている。

事務局 大神は、以前白寿荘と言っていたところを埋蔵文化財の収蔵施設として活用し、今年度のオープンに当たって住民の方にご覧いただいた。常時職員がいるところではないので、前もってご予約いただければ職員が出向いて説明をするという施設です。博物館でも城島に民具等を収蔵しており、同じ社会教育部として資料を見ていただく方策というものを考えているところです。ありがとうございます。

◆平成30年度夏期特別展「火星 赤い惑星のひみつ」の開催ならびにクラウドファンディングの状況について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 私も天体観察会会員だが、今回のクラウドファンディングは初めての試みということで学芸員が相当に力を入れて、あちらこちらにこまめに宣伝をした効果が出たのではないかと思う。最終的にはさばききれないほどの方が来館してどうなることかと思った。大成功だったと思う。

委員 あくまでも博物館活動の資金を確保するのは自治体の責務だと考えるので、クラウドファンディングが全面的に博物館の資金集めになるとは思わないが、クラウドファンディングを活用して・・・という事例はこれからも出てくると思う。今回の成功の要因や反省点などはあるか。

事務局 先ずは「平塚市で初めて」という点は、メディアにも多く採りあげられる要素になった。また、多くの方の共感を得られるテーマであったことが結果につながったと思う。

反面、「二匹目のドジョウはいない」とも考えている。そのたびに寄付を募るといのは施設のイメージダウンにつながりかねない。

委員 クラウドファンディングを採用するに至るまでにどういった経緯をたどったのか。

事務局 火星の接近という現象を好機ととらえ、老朽化した望遠鏡を更新したいという思いがある博物館と、新たな歳入の手段を研究する中でクラウドファンディングという選択肢を検討していた市の財政課との思いが一致してスタートした。大勢の共感を得ることができるテーマであり、事業全体のPRにもつながると判断に基づいて実施を決めた。

昨年の今頃、30年度の予算編成にあたって財政課とプロジェクトの内容や具体的な進め方などの協議を進め、今年度の実施につなげた。

委員 成果となった望遠鏡は今後も活用していくと思うが、実際に見る機会を増やしていく計画なのか。新しいものは、前のものとどう変わったのか？

事務局 実際に星の見え方は格段に違っている。星を見る会の開催回数を増やしていくというより、見える「質」を高めていくということで考えている。

委員 口径が大きくなり、分解能と、光量が増加することにより、より細かく、より遠くのものが見えるようになったもので、観測範囲を広げる装置を手に入れることが出来、参加者の感動、興味を増やすことにつながっている。

◆夏期行事の開催状況についてについて、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 イブニング・ミュージアム・ウィークは子どもの参加が少ないということだが、あえてこの時間帯にやる必要があるのか。

事務局 稼働時間の延長はいろいろな施設に求められているが、博物館という施設は開館時間を延長しても、そもそも利用される時間帯ではないのでイベントを開催することになっている。

委員 開館時間の延長は決まっているわけですね。

事務局 植田委員のお勤めになっていた施設で、夜間のイベントを実施して大きな成功を収めていた。委員から見ているかがか？

委員 ナイトアクアリウムと称して、通常開館以後の魚をご覧いただくイベントを実施していた。数字の記憶があいまいだが、たしか年間の入館者数で数十万人の増加があった。17:00を境に館内の照明を一斉に変えてそこでプロジェクションマッピングなどをやっている。日中と雰囲気を変えて工夫をし、入館者は入れ替えせず、料金はそのまま居残れるようにし

た。ただ、それなりの経費も掛かる。そこまでやっても数を増やすんだ、ということで実施したが、ショーアップしすぎかなという気もする。これは集客しなければならないという事情があつて行なつたもので、事業内容を伺うと、この博物館の事業にそういったイベントがふさわしいかどうかはまた別な話、と感じる。

委員 今年のイブニング・ミュージアム・ウィークは参加できなかったが、昨年・一昨年は参加した。高齢者にとってはこの時間帯は参加できる。昨年は大勢の参加者があつたので、テーマによって変わってくると思う。

事務局 目的、ターゲットによって、事業の内容や工夫も異なるということでご意見を承った。大変参考になった。ありがとうございました。

議題（２）今後の事業計画等について

◆今後の事業計画等について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 ワーキンググループの活動は平塚市博物館の売りであるので、博物館文化祭がなくなってしまふのはどうだろうか。展示や実演は難しいかもしれないが、成果発表までなくしてしまうのは残念。メンバーの意見を踏まえた決定なのか。

事務局 ワーキンググループメンバーの総意もまとめられない状態で、実行委員会が進められない状況から例年どおりの博物館文化祭は開催不可能としている。ただ、活動成果の発表の場というのは参加者にとっても意味のあることだということは考えている。展示の制作や実演などは難しいかもしれないが、例えばポスターセッションなどの形はできるかもしれないので、検討している。

事務局 おっしゃるとおり、ワーキンググループの活動が平塚市博物館を支えており、それがこの博物館の特徴。この特徴は全国に、世界に誇れる特徴と認識している。内容や時期は別にしても、何かの形でWGの活動を他の市民に紹介する機会を設けたい。

委員 補修工事の見通しが来年1月中ということだが、12月から1月の展示については部分的に開館して開催するという事なのか。

事務局 表には予定の下半期のイベントをそのまま記載している。実際に開催できるかどうかは工事の状況を見ながらということになるので、そのとおり実施する意味ではない。部分的な開館という方法も含めて今後検討することになる。たとえばプラネタリウムの場合、投影再開したところから残りの実施になる。1月までのテーマが流れてしまった場合に、予定テーマを順送りするか、飛ばしてしまうかも未定。

議題（3）その他

委員 自分が非常勤講師を務める大学の授業「博物館資料論」で、この博物館を題材にさせてもらった。館長にレクチャーをお願いし、展示室を自由見学させてレポートを提出してもらった。大学や学生の下承は得ているので、個人情報には伏せた上で、もし内部資料として参考になるならば、写しを提供したい。

事務局 興味深く、ありがたい。

委員 前回、当博物館ワーキンググループ会員(田中匠さん)が、地学オリンピック国内大会で1位となった旨、紹介した。その後、日本代表としてタイ国で開催された国際大会で、金メダルを受賞し、平塚市長に、表敬訪問した旨、マスコミ新聞報道で紹介されていた。平塚市博物館で育てられたとコメントされていた事が印象的で、平塚市博物館としても大変名誉な事であると思う。

◆次回の日程は3月後半で調整することとした。

◆終了後、ご希望の委員には天井モルタル剥離の現場をご覧いただいた。

以 上